

時事新報、

露帝ニコラス二世が父皇の位を襲めたるは一昨年の十一月なりしが本年の五月には愈よ其即位式を行はるゝに付き我皇族よりは伏見宮殿下の參會あるべく又道路の風説によれば總理伊藤氏も自から露京に入りて右の即位式を祝せんとすと云ふ已に獨逸皇帝の如きは親しく駕を枉む可しと云ひ傳ふる程なれば隣國の好として我皇族の參會は至極の御事ながら伊藤氏參會の風説をして眞實ならしめば我輩は別して之を祝せんとするものなり抑も一昨年來の戰争は世界の耳目を驚かしたる不意の出来事にして歐洲外交社會の人が日本人の成功を祝すると共に又その心術を揣摩思慮し戰勝の部判は恰も世說製造の機關と爲りて流言百出甲是乙非遂に彼等をして判断の明を失ふて日本の前途に疑懼を抱くに至らしめたり露佛獨の三國が合縱同盟して遼東事件を提議したるも畢竟此疑懼誤解より生じたる結果なりと云ふも不可なきが如し左れば今回我總理大臣にして露京に入るふとあらば自ら他の親王皇族が儀式一片に參同するものとは趣を異にして時に或は露廷の執政父好機會を利用して其腹心を吐露し日本國民は必ずしも歐洲人の疑懼するが如き野心あるものに非ざるの事實を示し又先方の言ふ所にも耳を傾けて其眞面目を明にしたらんには彼我の間に横はる誤解は雲霧の晴るもが如くにして我外交の前途を圓滑ならしむるに少からず利益ある可し是即ち我輩が國家の爲めに伊藤氏は是等の露國行を贊成する所以なり又國家談判を別にして更らに一步を進め伊藤その人の私を謀りても此行果して一身の大利益たるを知る可し凡そ一國の政治家として朝支那に於けるや清廷腐備中の錯々にして曲りながらに必ず國家の大事を身を繫き其人に非されば其事行れずと云ふが如き地歩を占るみと肝要なり譬へば李鴻章の李の爲めに專賣特許の姿を成し同僚の間には之を目に在るものに在るも一代に重きを成さんとするものは、も如何せん外國に關する大事に至ては不平ながらも老奸の勸言を俟つみと是非なき次第なれ彼の日清談判の結果の如き老齋輩の眼には近時の秦檜を見るみとならんされど秦檜遂に屢斬せられざるのみか其勢力舊に復して依然たり外交の關鍵を握りて身の重きを成す者と或人可し事柄は異なれど伊藤氏は夙に支那の情俗に鑑するを以て名を成し或は李鴻章と肝膽相照らすと謂はれ支那に対する外交の關鍵は殆んど伊藤の手中に在するが如くなるよりして遂に其人をして政治上に鑑みを爲さしむるの一助たりしは明白なる次第にして此中の消息を最も能く解したるものは或は本人自身なる輩があるに今や支那は己に外交上の勢力にわらず此國に對する外交の得失は從前の債を減じたると同時に其事蹟を續けし大事に臨みて判断を下すの力あるものには必ず政界に重きを爲す可し前年支那の例に照

雜報

らしても疑ふ可きに非ず而して今日の政治家にして露
情に通達すと稱する者は唯僅に榎本武揚氏西徳次郎氏
等二三あるのみにして實々物足らざるが如し此時に
當り伊藤氏にして彼國に至り其政治家に交り其形勢を
審察にし其國民の意志を會得して歸來せば治にも亂にも
も外交上最大問題の發言権は自から其の手中に歸し
外交の利害論は廣く内政の上にも影響を及ぼして内治
外交共に氏の一言は最終の判決たるに至る可し政治家
として一身の功名は此以上にある可らず故に今回伊藤
氏の諮詢行は國家の爲めにも本人の身の爲めにも一舉
兩全謀り得て至妙至巧なりと云ふ可し

大尉
急
仁
歸

らしても疑ふ可きに非ず而して今日の政治家にして露
情に通達すと稱する者は唯僅に榎本武揚氏西徳次郎氏
等二三あるのみにして客々物足らざるが如し此時に
當り伊藤氏にして彼國に至り其政治家に交り其形勢を
審にし其國民の意志を曉得して歸來せば政治にも亂に
も外交上最大問題の發言權は自から其の手中に歸し其
外交の利害論は廣く内政の上にも影響を及ぼして内治
外交共に氏の一言は最終の判決たるに至る可し政治家
として一身の功名は此以上にある可らず故に今回伊藤
氏の露國行は國家の爲めにも本人の身の爲めにも一舉
兩全謀り得て至妙至巧なりと云ふ可し

○廣丙號沈沒最後の狀況

後議事を翌日に延期せんと試みたるは有意か無意かは知らざれども在野黨は斯くの如くしなば五六の賛成者を増すべしと期したりしより草刈氏の演説後に政府黨が討論終結を絶叫したるは反對黨の意志と看破したる爲めにあらずして議事に倦みたるが故なるべしと云ふ賛反演説 河鷗氏が論旨の七分は上奏案賛成論にて僅に三分は反對論なりしを以て在野黨は氏の演説をば賛反演説なりと稱し居れり 逆に三分は反對論なりしを以て在野黨は氏の演説をば賛反賛演説 新井毫氏の演説の前半は反對論にて後半は賛成論なりしが故に之をば反賛演説と綽名し居ると云大竹氏の奔走 藤田氏の演説後政府黨の議員より討論終結と呼ぶものありしかば大竹氏は此時討論終結となりては在野黨の演説龍頭蛇尾となるを氣遣ひて河野廣中、林育造の二氏に草刈氏の後に責任派よりは中村彌六氏を出し非責任派より通告者たる小室重弘氏外一名を出さんと交渉せしに河野林の兩氏承諾せしを以て大竹氏は更に議長に交渉の次第を通知し置きしに開はらず議長は討論終結の聲喧しさに遠慮し討論終結にて採決せし舉動は最初の宣言に不似合なりしと評するものあり

申、李、杜、
李殷淳